

Ⅲ 消防用設備等の技術基準

第1 着工届、設置届等の添付図書等

1 着工届

- (1) 法第17条の14の規定に基づく工事整備対象設備等着工届書（以下「着工届」という。）には、案内図及び当該工事に係る消防用設備等の設計に関する図書の他、各消防用設備等に応じて別記様式1から別記様式17を添付すること。
- (2) 同一敷地内で複数棟の申請がある場合、原則として防火対象物ごとに届け出ること。
- (3) 消防用設備等の種類ごとに届け出ること。ただし、屋内消火栓及び屋外消火栓又は自動火災報知設備及びガス漏れ火災警報設備等で、配管又は受信機等を兼用していることにより設計図書が同一である場合にあっては、この限りでない。
- (4) 非常電源に係る図書は、条例第44条に基づく火を使用する設備等の設置の届出に当該図書が添付されている場合にあっては、省略することができるものであること。この場合、着工届にその旨を明記すること。
- (5) 法第17条の14に定める工事に着手しようとする日とは、次によるものであること。
 - ア 屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、水噴霧消火設備、泡消火設備、不活性ガス消火設備、ハロゲン化物消火設備、粉末消火設備及び屋外消火栓設備については、各設備の配管（各種ヘッド、ノズル等を直接取り付ける配管を除く。）の接続工事又は加圧送水装置の設置工事をしようとする日
 - イ 自動火災報知設備又はガス漏れ火災警報設備については、受信機（当該工事に受信機を含まないときは、感知器又は検知器）を設置しようとする日
 - ウ 避難器具については、取り付け金具の設置工事をしようとする日
- (6) 次に掲げる消防用設備等について、着工届の提出を指導すること。
 - ア 動力消防ポンプ設備
 - イ 非常警報設備
 - ウ 避難器具（滑り台、タラップ及び避難橋に限る。）
 - エ 消防用水
 - オ 排煙設備
 - カ 連結散水設備
 - キ 連結送水管
 - ク 非常コンセント設備
 - ケ 無線通信補助設備

2 設置届

- (1) 法第17条の3の2の規定に基づく消防用設備等の設置届出（以下「設置届」という。）には、案内図、当該設置に係る消防用設備等に関する図書及び消防用設備等試験結果報告書(平成元年12月1日 消防庁告示第4号)を添付すること。
 なお、着工届の対象となる消防用設備等で、当該届出に添付した図書と重複する図書にあっては、省略することができるものであること。
- (2) 同一敷地内で複数棟の申請がある場合、原則として防火対象物ごとに届け出ること。
- (3) 前1.(3)ただし書きにより着工届を兼用することとなる消防用設備等については、設置届にあっては兼用することができること。
- (4) 法第17条の3の2の規定により、設置届出を提出して消防機関の検査を受けなければ

ならない防火対象物は、次に掲げる防火対象物であること。

- ア 政令別表第1(2)項ニ、(5)項イ、(6)イ(1)~(3)、(6)項ロ、(6)項ハ(利用者を入居させ、又は宿泊させるものに限る)(16)項イ、(16の2)項及び(16の3)項に掲げる防火対象物(同表(16)項イ、(16の2)項及び(16の3)項に掲げる防火対象物にあつては、(2)項ニ、(5)項イ、(6)イ(1)~(3)、(6)項ロ、(6)項ハ(利用者を入居させ、又は宿泊させるものに限る)に掲げる防火対象物の用途に供される部分が存するものに限る。)
- イ 政令別表第1(1)項、(2)項イ~ハ、(3)項、(4)項、(6)項イ(4)、(6)項ハ及びニ、(9)項イ、(13)項ロ、(16)項イ、(16の2)項、(16の3)項、(17)項並びに(18)項に掲げる防火対象物(前アに掲げるものを除く)で、延べ面積が300㎡以上のもの
- ウ 政令別表第1(5)項ロ、(7)項、(8)項、(9)項ロ、(10)項、(12)項、(13)項イ及び(14)項に掲げる防火対象物で、延べ面積が500㎡以上のもの
- エ 政令別表第1(11)項及び(15)項に掲げる防火対象物で、延べ面積が1000㎡以上のもの
- オ 政令別表第1(16)項ロに掲げる防火対象物で、延べ面積が300㎡以上のもの(前イからオに掲げる防火対象物の部分が存するものに限る。)
- カ 前アからオに掲げる防火対象物以外で、特定1階段等防火対象物(政令第4条の2の2第1項第2号に規定する防火対象物をいう。以下同じ。)に該当するもの

3 軽微な工事に係る届出及び検査

軽微な工事の範囲及びこれに伴う届出及び消防検査については、「消防用設備等に係る届出等に関する運用について」(平成9年12月5日 消防予第192号)により運用するほか、その取り扱いについては、次によること。

- (1) 軽微な工事の範囲として、現場確認による消防検査を省略することのできる消防用設備等の設置届には、前2.(1)に規定する図書のほか、施工写真を添付すること。
- (2) 防火対象物の関係者は、消防用設備等の修理、整備等の経過一覧表に所要の事項を確実に記録するとともに、省令第31条の6第2項に規定する維持台帳に所要の書類を添付して保存し、査察時等に提示できるようにしておくこと。
- (3) 別表第1に掲げる「軽微な工事の範囲」の対象外(消防用設備等の種類を含む。)であっても、施工写真等を確認することにより支障ないと認められるものについては、現場確認による消防検査を省略することができるものであること。

4 防火対象物使用開始届出

- (1) 令別表第1に掲げる防火対象物のテナント変更、用途変更又は間仕切り変更等を行う場合にも、原則として防火対象物使用開始届出書を提出するものであること。
ただし、当該変更に伴い、床面積の変更を伴わず、かつ、消防用設備等の設置基準又は防火に関する規定の見直しを伴わない場合、あるいは、書類確認等により基準に適合している旨の確認がとれるものにあつては、当該届出書の提出をしないことができるものであること。この場合、立入検査時等において現状の平面図等を提出することができるよう準備させるとともに、必要に応じて管轄区域の消防署に変更内容等について報告するよう指導すること。
- (2) 防火対象物使用開始届出書に添付する消防用設備等の設計図書について、前1又は2により届出をされた消防用設備等に関する図書にあつては、省略することができるものであること。

別表第1 軽微な工事の範囲

消防用設備等の種類	増 設	移 設	取 替 え
屋内消火栓設備 屋外消火栓設備	①消火栓箱 → 2 基以下で既設と同種類のものに限定。 → 加圧送水装置等の性能（吐出量、揚程）、配管サイズ及び警戒範囲に影響を及ぼさないものに限定。	①消火栓箱 → 同一の警戒範囲内での移設	加圧送水装置を除く構成部品
スプリンクラー設備	①ヘッド → 5 個以下で、既設と同種類のもので、かつ、散水障害がない場合に限定。 → 加圧送水装置等の性能（吐出量、揚程）、配管サイズに影響を及ぼさないものに限定。 ②補助散水栓箱 → 2 個以下で既設と同種類のものに限定。	①ヘッド → 5 個以下で、防護範囲が変わらない場合に限定。 ②補助散水栓箱 → 同一警戒範囲内での移設	加圧送水装置、減圧弁、圧力調整弁、一斉開放弁を除く構成部品
水噴霧消火設備	①ヘッド → 既設と同種類のもの → 1 の選択弁において 5 個以内 → 加圧送水装置等の性能（吐出量、揚程）、配管サイズに影響を及ぼさないものに限定。	①ヘッド → 1 の選択弁において 2 個以内 ②手動起動装置 → 同一放射区画内で、かつ、操作性に影響のない場合に限定。	加圧送水装置、減圧弁、圧力調整弁、一斉開放弁を除く構成部品
泡消火設備	①ヘッド → 既設と同種類のもの → 1 の選択弁において 5 個以内 → 加圧送水装置等の性能（吐出量、揚程）、配管サイズ、泡混合装置、泡消火剤貯蔵量等の能力に影響を及ぼさないものに限定。	①ヘッド → 1 の選択弁において 5 個以下で警戒区域の変更のない範囲 ②手動起動装置 → 同一放射区画内で、かつ、操作性に影響のない場合に限定。	加圧送水装置（制御盤を含む）、泡消火剤混合装置、減圧弁、圧力調整弁を除く構成部品
二酸化炭素消火設備、ハロゲン化物消火設備、粉末消火設備	①ヘッド・配管（選択弁の二次側に限定） → 既設と同種類のもの → 5 個以下で、薬剤量、放射濃度、配管のサイズ等に影響を及ぼさないものに限定。 ②ノズル → 既設と同種類のもの → 5 個以下で、薬剤量、放射濃度、配管のサイズ等に影響を及ぼさないものに限定。 ③移動式の消火設備 → 既設と同種類のもの → 同一室内に限定。 ④制御盤、操作盤等の電気機器、起動用ガス容器、操作管、手動起動装置、火災感知器、放出表示灯、スピーカー、ダンパー閉鎖装置、ダンパー復旧装置 → 既設と同種類のもの → 同一室内で、かつ、電源容量に影響を及ぼさないものに限定。	①ヘッド・配管（選択弁の二次側に限定） → 5 個以下で、放射区域の変更のない範囲 ②ノズル → 5 個以下で、放射区域の変更のない範囲 ③移動式の消火設備 → 同一室内に限定。 ④制御盤、操作盤等の電気機器、起動用ガス容器、操作管、手動起動装置、火災感知器、放出表示灯、スピーカー、ダンパー閉鎖装置、ダンパー復旧装置 → 同一室内で、かつ、電源容量に影響を及ぼさないものに限定。	すべての構成部品 → 放射区域に変更のないものに限定。
自動火災報知設備	①感知器 → 既設と同種類のもの → 10 個以下 ②発信機、ベル、表示灯 → 既設と同種類のもの → 同一警戒区域内に限定。	①感知器 → 10 個以下で警戒区域の変更がない場合に限定。 ②発信機、ベル、表示灯 → 同一警戒区域内に限定。	①感知器 → 10 個以下に限定。 ②受信機、中継器 → 7 回線を越えるものを除く。 ③発信機、ベル、表示灯
ガス漏れ火災警報設備	①検知器 → 既設と同種類のもの → 5 個以下で、警戒区域の変更がない場合に限定。	①検知器 → 5 個以下で、警戒区域の変更がない場合に限定。	受信機を除く。
避難器具（金属製避難はしご（固定式のものに限定。））（救助袋）（緩降機）	該当なし	①本体・取付金具 → 同一階に限定。 → 設置時と同じ施工方法に限定。	①標識 ②本体・取付金具 → 設置時と同じ施工方法に限定。

別記様式1

防火対象物 } の概要表
製造所等 }

建築物の概要						
名称				所在地		
用途				階数(階層)		地上階地下階塔屋階
主要構造部		耐火構造・準耐火構造・その他()			延べ面積 m ²	
階別	床面積 (m ²)	用途又は室名	構造	内装仕上げ		特記事項
				天井	壁	
その他						

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
2 消防用設備等の設置に係る階について、各階ごとに記入すること。

別記様式2

屋内消火栓設備 ・ 屋外消火栓設備
水噴霧消火設備 ・ 泡消火設備 } の概要表

項 目											
水源	専用・兼用	種別	地下ピット・床置き・その他 ()			有効水量(当該設備用)		m ³ (m ³)			
加圧送水装置	ポンプ方式	ポンプ、電動機	専用・兼用	口径	×	吐出量	×	全揚程	×	出力	
			電圧	V	(φ) ×		(L/min) ×	(m) ×	(kw)		
	ユニット型	呼水装置	有・無	有効容量	L	減水警報の表示場所					
		起動用圧力タンク	有・無	容 量	L	ポンプ設置場所					
	高架水槽方式	有効落差	m	圧力水槽方式	加圧圧力	MPa		内容積	m ³		
消火栓	内栓	1号	個	2号	個	易操作性1号	個	外栓	個	階の最大個数	個
	表示灯	専用・兼用	遠隔起動部	専用・P型発信機兼用	ホース	長さ	(m) ×	本	A		
噴霧ヘッド		標準放射量	L/min		標準放射圧力	MPa		個	放射角度	°	
泡放出口		フォームヘッド 個 ・ フォームウォーターズプリンクラーヘッド 個									
		高発泡用泡放出口 個 ・ 泡ノズル 個 ・ その他 () 個									
泡消火設備の方式		固定式(全域・局所) ・ 移動式			高発泡 ・ 低発泡	一斉開放弁	A 個				
泡消火剤	種別	たん白泡 ・ 合成界面活性材 ・ 水成膜泡			貯蔵量	L	希釈容量濃度	%			
	混合方式	差圧混合方式 ・ 管路混合方式 ・ 圧入混合方式・ポンプ混合方式 ・ その他 ()									
放水・射区域	放水(出・射)合計区域数 区域	最大放水(出・射)面積	m ²		放水(出・射)量	L/min		放出体積	m ³		
		最小放水(出・射)面積	m ²		放水(出・射)量	L/min		放出体積	m ³		
		隣接する二の最大放水(出・射)面積		m ²		放水(出・射)量	L/min		放出体積	m ³	
起動装置		ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他 ()								
		起動感知方式	スプリンクラーヘッド ・ 感知器 ・ その他 ()							手動式開放弁	
自動警報装置		流水検知装置	A 個		圧力検知装置	個		その他 ()			
配管	管	立上がり管口径	A		材質 JIS G ()	専用・兼用 (設備)					
	弁類	止水弁 JIS ()			逆止弁 JIS ()	その他 ()					
ポンプ・電動機	ポンプ、電動機	電圧	口径	×	吐出量	×	全揚程	×	出力	中間水槽の場所・容量	
		V	(φ) ×	(L/min) ×	(m) ×	(kw)	/	m ³			
		V	(φ) ×	(L/min) ×	(m) ×	(kw)	/	m ³			
電源	常用電源	単相 ・ 三相 AC	V		電灯回路 ・ 動力回路						
		DC	V	AH	充電方式	トリクル ・ 浮動		使用別	専用 ・ 共用		
	非常電源	自家発電設備	単相 ・ 三相 AC ・ DC	V		kVA		使用別	専用 ・ 共用		
		蓄電池設備	DC	V	AH	充電方式	トリクル ・ 浮動		使用別	専用 ・ 共用	
	非常電源専用受電設備 1	単相 ・ 三相 AC V									
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ()									
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()									
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()									
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ()									
その他											

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 選択肢の併記している欄は、該当事項を○印で囲むこと。

スプリンクラー設備の概要表

項 目													
水源	専用・兼用	種別	地下ピット・床置き・その他()			有効水量(当該設備用)			m ³ (m ³)				
加圧送水装置	ポンプ方式	ポンプ、電動機	専用・兼用		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力								
			電圧	V	(φ) × (L/min) × (m) × (kw)								
		呼水装置	有・無		有効容量	L	減水警報の表示場所						
		起動用圧力タンク	有・無		容 量	L	ポンプ設置場所						
	高架水槽方式	有効落差 m		圧力水槽方式		加圧圧力	MPa	内 容 積	m ³				
スプリンクラーヘッド等	閉鎖型(高感度)(温度 °C × 個・r=)・(温度 °C × 個・r=)									減圧弁			
	閉鎖型(標準型)(温度 °C × 個)・(温度 °C × 個)									有・無			
	小区画型(温度 °C × 個)・(温度 °C × 個)												
	側壁型(温度 °C × 個)・(温度 °C × 個)												
	開放型(個・警戒場所 ・警戒区域数)・補助散水栓 個												
設備の方式	湿式・乾式・予作動式(湿・乾)		自動警報装置		流水検知装置 A 個		圧力検知装置		個				
起 動 装 置	ポンプ起動方式		起動用水圧開閉装置 ・ 流水検知装置 ・ その他()										
	起動感知方式		スプリンクラーヘッド ・ 感知器 ・ その他()							手動式開放弁			
一斉開放弁	A 個					電 動 弁 等		A 個					
配管	管	立上り管口径 A				材質 JIS G			専用・兼用(設備)				
	弁類	止水弁 JIS				逆止弁 JIS ()			その他 ()				
放水型ヘッド	警 戒 場 所				固定式(個)・可動式(個)		一斉開放弁 A 個						
	ポンプ方式	ポンプ、電動機	専用・兼用		口径 × 吐水量 × 全揚程 × 出力								
			電圧	V	(φ) × (L/min) × (m) × (kw)								
		呼水装置	有・無		有効容量	L	減水警報の表示場所						
		起動用圧力タンク	有・無		容 量	L	ポンプ設置場所						
	起動感知方式		感知器(煙・定温・差動・炎)・走査型の感知器・その他()										
	通常の起動方式		自動式・手動式	現地操作盤	有・無	排水措置	有・無	火災時優先 ITV	有・無				
	配管	管	立上り管口径 A				材質 JIS G()			専用・兼用(設備)			
弁類		止水弁 JIS()				逆止弁 JIS()			その他()				
ブースター			電圧		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		中間水槽の場所・容量						
	ポンプ、電動機	V	(φ) ×	(L/min) ×	(m) ×	(kw)	/ m ³						
		V	(φ) ×	(L/min) ×	(m) ×	(kw)	/ m ³						
補助加圧装置	ポンプ、電動機	V	(φ) ×	(L/min) ×	(m) ×	(kw)							
		V	(φ) ×	(L/min) ×	(m) ×	(kw)							
送 水 口	双 口 型		個		場 所								
電 源	常 用 電 源	単相 ・ 三相 AC V 電灯回路 ・ 動力回路											
		D C		V		A H		充電方式	トリクル・浮動		使用別	専用・共用	
	非 常 電 源	自家発電設備	単 相 ・ 三 相		A C ・ D C		V		kVA	使用別	専用・共用		
		蓄電池設備	D C		V		A H		充電方式	トリクル・浮動		使用別	専用・共用
		非常電源専用受電設備		単 相 ・ 三 相		A C		V					
配 線	常用電源回路	露出ケーブル、電線管露出、電線管埋没、その他()											
	非常電源回路	耐火電線、電線管露出、電線管埋没、その他()											
	警 報 回 路	耐熱電線、電線管露出、電線管埋没、その他()											
	その他の回路	IV電線、露出ケーブル、電線管露出、電線管埋没、その他()											
その他													

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

別記様式4

不活性ガス消火設備・ハロゲン化物消火設備
粉末消火設備（消火剤種類） } の概要表

項 目													
放 出 方 式		全域放出方式 ・ 局所放出方式 ・ 移動式						制御盤設置位置					
貯蔵容器等		蓄圧（ 高圧式 ・ 低圧式 ・ その他（ ） ） ・ 加圧											
起 動 方 式		手動電気式 ・ 手動ガス式 ・ 自動式				自動起動用感知部		自火報感知器兼用 ・ 消火設備専用					
音 響 警 報		音 声 ・ サイレン ・ 音 声 + サイレン ・ ブザー ・ その他（ ）											
放出表示灯		設 置 個 数		簡 所		回 転 灯 等		簡 所		赤 色 表 示 灯		専 用 ・ 兼 用	
消 火 薬 剤		種 別						設 置 場 所					
		容器別数量		$\text{kg} \cdot \text{m}^3 \times \text{容器本数}$ $\text{kg} \cdot \text{m}^3 \times \text{容器本数}$				本 = $\text{kg} \cdot \text{m}^3$ 本 = $\text{kg} \cdot \text{m}^3$		総数量 $\text{kg} \cdot \text{m}^3$			
加圧用ガス		窒素ガス ・ 二酸化炭素				数量 $\text{m}^3 \cdot \text{L} \cdot \text{kg}$				容 器 本 数		本	
配 管 類	管	JIS（ ）											
	弁 類	種 別	選 択 弁	放 出 弁	減 圧 弁	閉 止 弁	その他						
		最高使用圧力 Mpa											
放出区域		区 域 数		最大放出面積 m^2		放出率 kg / sec		最大放出体積 m^3					
		区 域		最小放出面積 m^2		放出率 kg / sec		最小放出体積 m^3					
移動式消火設備の数等			防護区域名 ・ 区域 ・ $\text{kg} \times$ 簡所										
電 源	常用電源	単相 ・ 三相		AC		V		電灯回路 ・ 動力回路					
		DC		V		AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別 専用 ・ 共用	
	非常電源	自家発電設備		単相 ・ 三相		AC ・ DC		V		kVA		使用別 専用 ・ 共用	
		蓄電池設備		DC		V		AH		充電方式		トリクル・浮動	
配 線	常用電源回路		露出ケーブル・電線管露出・電線管埋没・その他（ ）										
	非常電源回路		耐火電線・電線管露出・電線管埋没・その他（ ）										
	警 報 回 路		耐熱電線・電線管露出・電線管埋没・その他（ ）										
	そ の 他 の 回 路		IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管埋没・その他（ ）										
放 出 区 域 （ ）	放出区域名						日常の人の出入 有 ・ 無		日常の起動方式		自 動 ・ 手 動		
	床 面 積		容 積		必要消火剤量		設 置 消 火 剤 量		貯 蔵 容 器 本 数		放射時間 遅延時間		
	m^2		m^3		$\text{m}^3 \cdot \text{kg}$		$\text{m}^3 \cdot \text{kg}$		$\text{m}^3 \cdot \text{kg} \times$ 本		秒 秒		
	開 口 部		換 気 装 置		排 出 措 置						ガス等の排出場所		
	有（閉）・無		有（閉）・無		固定機械（専用・兼用）・ホータブルファン・その他（ ）								
	自動起動感知部		専用感知部（種別： ）・自火報兼用（種別： ）										
	避圧口		無 ・ 有（ cm^2 ）										
開口部等 （移動式の 場合）	開口部の大きさ		（常時開・他） m^2				床面積に対する開口部の割合				%		
	開口部の位置等						火災のとき煙が著しく充満するおそれがない				該・非		
そ の 他													

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

動力消防ポンプ設備概要表

項		目
種 別		☐ 消防用ポンプ自動車 ☐ 自動車に牽引されるもの ☐ 小型動力ポンプ付積載車 ☐ 可搬消防ポンプ
水 源	種 別	☐ 防火水槽 ☐ 地下タンク ☐ その他
	水 量	保有量_____m ³ 有効水量_____m ³ ☐ 専用, ☐ 兼用
水源と可搬消防ポンプまでの歩行距離		_____m
動 力 消 防 ポ ン プ	ポ ン プ の 級 別	A ・ B ・ C ・ D - _____級
	規 格 放 水 量	_____ L/min
	吸 水 口 の 口 径	_____ mm
	放 水 口 の 口 径	_____ mm
	放 水 口 数	_____口
放 水 用 具	消 防 ホ ー ス	呼称_____ ×長さ_____ m×_____本
	筒 先 口 径	_____ mm
	吸 管 ス ト レ ー ナ ー	☐ 有, ☐ 無
そ の 他		

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とすること。
 2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

別記様式6

自動火災報知設備の概要表

項 目													
感 知 器	機種	蓄積	自動	遠隔	種 別	個数	機 種	蓄積	自動	遠隔	種 別	個数	
	差動式スポット型				1-2 アドレス ()		イオン化式スポット型				1-2-3 アドレス ()		
	差動式分布型				1-2-3 m		光電式スポット型				1-2-3 アドレス ()		
	補償式スポット型				1-2 □防水 □防食 (°C)		光電式分離型				1-2 アドレス ()		
							イオン化アナログ式				1-2-3		
	定温式スポット型				特-1-2 □防水 アドレス () □防食 (°C) □防爆		光電アナログ式				1-2-3		
							光電アナログ式分離				1-2-3		
	熱アナログ型スポット型				°C	°C	炎 感 知 器				屋内型・屋外型 道路型 紫・赤・併用		
	多 信 号												
	型式番号	熱感第 号	熱感第 号	熱感第 号	煙感第 号	煙感第 号	煙感第 号	煙感第 号	炎感第 号	炎感第 号			
熱感第 号		熱感第 号	熱感第 号	煙感第 号	煙感第 号	煙感第 号	煙感第 号	炎感第 号	炎感第 号				
熱感第 号		熱感第 号	熱感第 号	煙感第 号	煙感第 号	煙感第 号	煙感第 号	炎感第 号	炎感第 号				
製造会社名													
発信機	型 級	屋内型 個	屋外型 個	表示灯		V 個	製造会社		型式番号	発第 号			
中継器	回線 予備電源 有 (DC V AH) 無					回線 予備電源 有 (DC V AH) 無							
	自動・遠隔・アナログ・その他 設置場所 ()					自動・遠隔・アナログ・その他 設置場所 ()							
	型式番号	中第 号	中第 号	中第 号	中第 号	製造会社							
受信機	□P型1級 / 回線 □GP型 / 回線					蓄電・二信号・アナログ・自動試験・遠隔試験・その他							
	□P型2級 / 回線 □GP型 (点数 点)					型式番号 受第 号 製造会社 ()							
	□P型3級 / 回線 □R型 (点数 点)												
予備電源	(DC V AH)					設 置 場 所 (階 室)							
副 受 信 機	/ 回線 台 自火報点数 点 その他点数 点 予備点数 点												
電 源	常 用 電 源	単 相 ・ 三 相 AC V 非常電源専用受電設備回路 電 灯 回 路 動 力 回 路											
		DC V AH 充電方式 (トリクル ・ 浮 動) 使用別 (専 用 ・ 共 用 ())											
	非 常 電 源	非常電源専用受電設備回路 単相 ・ 三相 AC V											
		蓄電地設備 DC V AH 充電方式 (トリクル ・ 浮動) 使用別 (専用 ・ 共用 ())											
音 響 設 備	主 音 響 設 備	ベル (mm) ・ サイレン ・ 電子ブザー ・ 音声合成 ・ その他 ()								定格 DC V mA 個			
		型式番号 (号)		製 造 会 社 名									
	地区音響設備	ベル (mm) ・ サイレン ・ 電子ブザー ・ 音声合成 ・ その他 ()								定格 DC V mA 個			
型式番号 (号)		製 造 会 社 名											
配 線	常用電源回路	露出ケーブル ・ 電線管露出 ・ 電線管埋設 ・ その他 ()											
	非常電源回路	耐火電線 ・ 電線管露出 ・ 電線管埋設 ・ その他 ()											
	警 報 回 路	耐熱回線 ・ 電線管露出 ・ 電線管埋設 ・ その他 ()											
	その他の回路	I V 電線 ・ 露出ケーブル ・ 電線管露出 ・ 電線管埋設 ・ その他 ()											
関 連 装 置	消火設備 () 火災通報装置・誘導等信号装置・非常警報設備・放送設備・その他 ()												
工 事 者 区 分	電 源 工 事 会 社 名 ()												
	配 線 工 事 会 社 名 ()												
	機 器 取 付 工 事 会 社 名 ()												
そ の 他													

備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 選択肢の併記している欄は、該当事項を○印で囲み、□欄には該当するものにレ印を記入すること。

3 アドレスとは番号付感知器をいい、()内には該当感知器の個数を入れること。

4 イオン化アナログ式とは、「イオン化アナログ式スポット型感知器」、光電アナログ式とは、「光電アナログ式スポット型感知器」をいう。

5 感知器形式番号は、熱、煙、炎感知器毎に記入すること。

別記様式7

ガス漏れ火災警報設備の概要表

項 目									
検知器	検知対象ガス		空気より軽い都市ガス		空気より重い都市ガス		その他のもの		
	個 数		個		個		個		
中継器	回線 個		電源 専用方法 受信機供給方法 その他の方法		予備電源 V		AH		
受信機	区分	型			回線数	／ 回線			
	附属装置				附属回路				
	予備電源	V AH			設置場所	階			
電源	常用電源	単相・三相		AC V		電灯回路・動力回路			
		DC V AH	充電方法	トリクル・浮動		使用別	専用・共用		
	非常電源	蓄電池設備		充電方法	トリクル・浮動		使用別	専用・共用	
		DC V AH	インバーター出力		VA				
		自家発電設備		単相・三相		AC V		KVA	
警報装置	音声警報装置	増幅器出力		スピーカ 個数		非常用放送設備と兼用			
		定格 W		個		有 ・ 無			
	ガス漏れ表示灯	中継器付属のもの			その他のものの				
		個			個				
	検知区域警報装置	検知器付属のもの			その他のものの				
		個			個				
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他()							
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他()							
	検知器回路	耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他()							
	警報装置回路	耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他()							
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他()							
工事者区分	電源及び配線				機器取付				
製造者名	受信機製造会社				型 式 番 号				
	中継器製造会社				型 式 番 号				
	検知器製造会社								
その他									

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
2 項目中□欄は、該当するものをレ印でアンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

別記様式9

非常警報設備(非常ベル・自動式サイレン・放送設備)概要表

項 目	
□ 放 送 設 備	方式 ☐ 専用, ☐ 業務兼用 回線数, _____/ _____回線
	増幅器 型名_____, 認定番号_____, 定格出力_____W, 消費電力_____W, 設置場所_____階_____
	操 作 部 放送区分 ☐ 一斉 ☐ 階別選択, 設置場所, _____階_____
	遠 隔 操 作 部 ☐ 有 ☐ 無, 型式_____, 認定番号_____, 本機の設置場所_____階_____
	起 動 装 置 ☐ 押しボタン, ☐ 発信機, ☐ 非常電話, ☐ 自火報の感知器連動
	非 常 電 話 ☐ 有 ☐ 無, 型名_____, 認定番号_____, 子機_____台, 本機の設置場所_____階_____
	自 動 放 送 ☐ 有 ☐ 無, 起動方法 ☐押しボタン ☐発信器と連動 ☐非常電話と連動 ☐自火報と感知器と連動 ☐手動操作のみ
ス ピ ー カ ー ☐ 2線式, ☐ 3線式, 音量調整器 ☐ 有 ☐ 無, 設置方式 ☐ 壁掛, ☐ 埋込, ☐ その他 スピーカー型式 ☐ L 級×_____個 ☐ M 級×_____個 ☐ S 級×_____個	
□非 常 ベル ・ □自 動 式 サイ レ ン	機 器 の 種 別 ☐ 一体型, ☐ 複合装置, ☐ 単体型, ☐ その他(_____) 認定番号_____
	音 響 装 置 鐘 (スピーカー)径_____mm, 電圧_____V, 電流_____mA, 設置数 ☐ 屋内型_____個, ☐ 屋外型_____個,
	操 作 装 置 ☐ 有 ☐ 無, 回線数_____/_____, 設置場所_____階_____
非常電源	☐ 専用受電設備 AC_____V ☐ 蓄電池設備, ☐ 据置, ☐ 内蔵, ☐ トリクル充電, ☐ 浮動充電_____V_____AH
配 線	常用電気回路: ☐ 露出ケーブル ☐ 電線管露出 ☐ 電線管埋没 ☐ その他 非常電気回路: ☐ 耐火電線 ☐ 電線管埋没 ☐ その他 警報回路: ☐ 耐熱電線 ☐ 電線管露出 ☐ 電線管埋没 ☐ その他 弱電回路: ☐ 露出ケーブル ☐ 電線管露出 ☐ 電線管埋没 ☐ その他
そ の 他	

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

避難器具概要表

防火対象物の概要								
名称					所在			
用途					階数(階層)	地上	階	地下
主要構造部	耐火構造・準耐火構造・その他()				延べ面積	m ²		
避難器具の概要								
階別	床面積	用途	収容人員	無窓該当	階段の数	減免数	設置数	避難器具の種別(個数)
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
避難器具の種別								
認定番号等		第 ～ 号		第 ～ 号		第 ～ 号		第 ～ 号
設置場所の状況 (用途、構造等)								
開口部の大きさ 縦 × 横 (cm)		____ × ____		____ × ____		____ × ____		____ × ____
腰 高 (cm)		_____cm		_____cm		_____cm		_____cm
操 作 面 積		_____m ²		_____m ²		_____m ²		_____m ²
降下空間の障害		☐ 有 ☐ 無		☐ 有 ☐ 無		☐ 有 ☐ 無		☐ 有 ☐ 無
固 定 位 置								
固 定 方 法								
固定部材にかかる 設計荷重(N)		_____N		_____N		_____N		_____N
固定部材の許容応力 (Mpa)		_____Mpa		_____Mpa		_____Mpa		_____Mpa
その他								

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
- 2 避難器具の種別(個数)欄は、「は」は金属製避難はしご、「袋」は救助袋、「緩」は緩降機を表し、避難器具の種別の後の()内にそれぞれの種別ごとの設置個数を記載すること。
- 3 項目中の□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分及び欄中には該当する内容を記入すること。

避難器具概要表

防火対象物の概要									
名称				所在					
用途				階数(階層)		地上 階 地下 階 塔屋 階			
主要構造部		耐火構造・準耐火構造・その他()				延べ面積		m ²	
避難器具の概要									
階別	床面積	用途	収容人員	無窓該当	階段の数	減免数	設置数	避難器具の種別(個数)	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
								は()・す()・ロ()・棒()・橋()・タ()	
避難器具の種別									
認定番号等			第 ～ 号		第 ～ 号		第 ～ 号		第 ～ 号
設置場所の状況 (用途、構造等)									
開口部の大きさ 縦 × 横 (cm)			____ × ____		____ × ____		____ × ____		____ × ____
腰高(cm)			_____cm		_____cm		_____cm		_____cm
操作面積			_____m ²		_____m ²		_____m ²		_____m ²
降下空間の障害			☐ 有 ☐ 無		☐ 有 ☐ 無		☐ 有 ☐ 無		☐ 有 ☐ 無
固定位置									
固定方法									
固定部材にかかる 設計荷重(N)			_____N		_____N		_____N		_____N
固定部材の許容応力 (Mpa)			_____Mpa		_____Mpa		_____Mpa		_____Mpa
その他									

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
- 2 避難器具の種別(個数)欄は、「は」は金属製避難はしご、「す」はすべり台、「ロ」は避難ロープ、「棒」はすべり棒、「橋」は避難橋、「タ」は避難タラップを表し、避難器具の種別の後の()内にそれぞれの種別ごとの設置個数を記載すること。
- 3 項目中の□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分及び欄中には該当する内容を記入すること。

消 防 用 水 概 要 表

項 目		
方 式		☐ 自吸式, ☐ 加圧式
水 源	種別 水量	☐ 防火水槽, ☐ 地中梁, ☐ 据置き, ☐ その他, 保有量_____m ³ , 有効水量_____m ³ , ☐ 専用, ☐ 兼用
種 別	☐ 連絡装置 : 有 ・ ブースターポンプ : 有 ☐ 連絡装置 : 有 ・ ブースターポンプ : 無 ☐ 連絡装置 : 無 ・ ブースターポンプ : 有 ☐ 連絡装置 : 無 ・ ブースターポンプ : 無	
連絡装置設置位置		☐ 採水口付近, ☐ 防災センター, ☐ その他_____
ブ ー ス タ ー ポ ン プ	設置位置	_____
	ポンプ 電動機	☐ 専用, ☐ 兼用 吐出量_____L/min 全揚程_____m, 口径_____mm 電圧_____V, 出力_____kW
	呼 水 装 置	有効容量_____L, 給水方法_____, 呼水管_____A 減水警報の種別_____及び表示場所
	起動スイッチ設置位置 ☐ 採水口付近, ☐ 防災センター内, ☐ その他_____	
採 水 口		☐ 呼称75ねじ式, ☐ 呼称65ねじ式
吸 水 管 投 入 口		投入口の寸法 直径_____cm 投入口である旨の表示 ☐ 有 ・ ☐ 無
そ の 他		

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

排 煙 設 備 概 要 表

方 式		☐ 自然 ☐ 機械 (☐ 吸引排煙, ☐ 加圧防排煙)	
項 目			
排 煙 機	設置位置	_____ 階 _____	
	機械室の構造	壁 ☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 天井 ☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 開口部 ☐ 防火設備, ☐ 不燃	
	排 出 量	_____ m ³ /min	
	非常電源	☐ 非常電源専用受電設備, ☐ 自家発電設備, ☐ 蓄電池設備	
	起動装置	☐ 自動 (感知器連動) ☐ 手動, ☐ 遠隔操作	
排 煙 口	大きさ	_____ m × _____ m	
	設置位置	☐ 天井面, ☐ 天井直下, ☐ その他 (_____)	
	防災区画の構造等	防災区画面積 最大 _____ m ² 防災区画の構造 ☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 (_____)	
風 道 等	風道構造	☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 (_____)	
	区画ダンパー	☐ 無, ☐ 有, 種別 _____	
給 気 機	設置位置	_____ 階 _____	
	機械室の構造	壁 ☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 天井 ☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 開口部 ☐ 防火設備, ☐ 不燃	
	給 気 量	_____ m ³ /min	
	非常電源	☐ 非常電源専用受電設備, ☐ 自家発電設備, ☐ 蓄電池設備	
	起動装置	☐ 自動 (感知器連動) ☐ 手動, ☐ 遠隔操作	
給 気 口	大きさ	_____ m × _____ m	
	設置位置	☐ 壁, ☐ その他 (_____)	
	防災区画の構造等	防災区画面積 最大 _____ m ² 防災区画の構造 ☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 (_____)	
風 道 等	風道構造	☐ 耐火, ☐ 不燃, ☐ その他 (_____)	
	区画ダンパー	☐ 無, ☐ 有, 種別 _____	
消火活動拠点		☐ 特別避難階段の付室, ☐ 非常用エレベーターの乗降ロビー ☐ その他 (_____)	
		風道	防火ダンパー ☐ 無 ※防火ダンパーは設けないこと
特 記 事 項			

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

連 結 散 水 設 備 概 要 表

項 目			
設備方法		☐ 開放型ヘッド方式 ☐ 閉鎖型ヘッド方式(屋内消火栓設備兼用・高架水槽方式)	
開放型ヘッド方式	送水区域数	_____区域	
	送水口数	双口型_____基	
	ヘッド	最大設置数_____個, 最小設置数_____個	
	選択弁	☐ 有り, ☐ 無し (設置場所_____, 口径_____A, _____個)	
	排水弁	☐ 有り, ☐ 無し (設置場所_____, 口径_____A, _____個)	
	設計送水圧力	_____MPa	
	配管	管材種	☐ JIS_____, ☐ その他_____
		管継手	☐ JIS_____, ☐ その他_____
		弁類	☐ JIS_____ (_____K) . ☐ JIS 以外_____ (_____K)
		接続	☐ ねじ, ☐ その他(_____)
防食措置		☐ ライニング管 ☐ その他(_____)	
閉鎖型ヘッド方式	水源水量	有効_____m ³	
	送水口	双口型_____基	
	ヘッド	閉鎖型ヘッド_____個, 表示温度_____℃	
	連結送水管兼用	☐ 有り, ☐ 無し	
	加圧送水装置等	☐ ポンプ方式(設置場所_____) ・ ☐ 専用ポンプ ☐ 屋内消火栓設備用ポンプ ・ ポンプ(吐出量_____L/min×全揚程_____m×口径_____A) ・ 電動機(電圧_____V, 出力_____kw) ☐ 高架水槽方式(設置場所_____) ・ ☐ 専用高架水槽 ☐ 屋内消火栓設備用高架水槽 ・ 落差_____m	
		起 動 方 法 ☐ 流水検知装置(設置数_____個, 口径_____A) ☐ 圧力検知装置(設置数_____個, 口径_____A)	
		設計送水圧力 _____MPa	
		管 ☐ JIS G 2238, ☐ JIS G 3452, ☐ その他	
		管継手	フランジ
	フランジ以外		☐ JIS B 2301, ☐ JIS B 2311, ☐ JIS B 2312, ☐ その他
	弁 類 ☐ JIS_____ (_____K) . ☐ JIS 以外_____ (_____K)		
	配管の防食措置 ☐ ライニング管, ☐ その他(_____)		
その他			

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A4とすること。
 2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

連 結 送 水 管 概 要 表

項 目																
方 式	☐ 乾式 ☐ 湿式(ブースターポンプ有り・ブースターポンプ無し)															
設計送水圧力(1.6Mpa 以下)				_____Mpa(ブースターポンプ起動時_____Mpa)												
スプリンクラー設備状況				☐ 全階設置, ☐ 一部設置(設置階_____階), ☐ 設置無し												
系 統 数 等		_____系統(☐ バイパス接続無し, ☐ バイパス接続有り) ☐ 連結送水管専用, ☐ 屋内消火栓設備兼用														
送 水 口 数		双口型_____基														
放 水 口 位 置		☐ 特別避難階段等の附室, ☐ 屋外階段, ☐ 屋内階段, ☐ 階段等付近														
非常用 ELV		☐ 設置有り, ☐ 設置無し														
放 水 口 等 設 置 数	階 別															
	単 口 形															
	双 口 形															
	放 水 用 具 有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無
逆 止 弁		☐ 有 , ☐ 無		止 水 弁		☐ 有 , ☐ 無		排 水 弁		☐ 有 , ☐ 無						
配 管 等	管		☐ JIS G 3442, ☐ JIS G 3452, ☐ JIS G 3454Sch40, ☐ その他													
	管 継 手	フランジ	☐ JIS B 2238, ☐ JIS B 2220, ☐ その他													
		フランジ以外	☐ JIS B 2301, ☐ JIS B 2311, ☐ JIS B 2312, ☐ その他													
	弁 類		☐ JIS _____K, ☐ JIS 以外 _____K,													
	防 食 措 置		☐ ライニング管, ☐ その他()													
	主 管 内 径		☐ 全部100A 以上, ☐ 100A 未満有り(全部, 一部)													
加 圧 送 水 装 置	設 置 位 置		_____階_____						圧力調整位置		☐ 有り, ☐ 無し					
	ボ ン プ 電 動 機		吐出量_____L/min×全揚程 _____m×口径_____ A 電圧 _____V 出力 _____kW													
	非 常 電 源		☐ 非常電源専用受電設備, ☐ 自家発電設備, ☐ 蓄電池設備													
	配 線		非常電源回路 : ☐ 耐火電線, ☐ 電線管理設, ☐ その他 操 作 回 路 : ☐ 耐熱電線, ☐ 電線管理設, ☐ 電線管露出, ☐ その他													
置	中 間 水 槽 等		中間水槽容量_____m ³ , 送水口_____個, 放水口_____個													
	起 動 装 置 位 置		☐ 防災センター等, ☐ 送水口直近, ☐ その他													
	連 絡 装 置 等		☐ 送水口直近, ☐ 防災センター等, ☐ ブースターポンプ室													
そ の 他																

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

非 常 コ ン セ ン ト 設 備 概 要 表

項 目		
設 置 場 所		_____階_____
設 置 数	地 下 4 階 以 下	_____個
	1 1 階 以 上	_____個
	地 下 街	_____個
	上 記 以 外	_____個
	計	_____個
幹 線 数		_____系統
非 常 電 源		☐ 非常電源受電設備 ・ ☐ 自家発電設備 ・ ☐ 蓄電池設備
そ の 他		

備考 1 この用紙の大きさは 日本工業規格 A4とすること。
 2 項目中□欄は、該当するものをレ印でアンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

無線通信補助設備概要表

項 目																	
増 幅 器	☐ 有 ・ ☐ 無 設置場所 _____ 型 名 _____ ・ 利 得 _____ dB																
方 式	☐ 専用 ☐ 共用(☐ 警察用 ・ ☐ 防災管理用 ・ ☐ その他 _____)																
周 波 数 帯 域	_____ MHz																
設 置 方 式	☐ 漏洩同軸ケーブル方式 ・ ☐ 漏洩同軸ケーブル及び空中線方式 ・ ☐ 空中線方式																
無 線 機 接 続	保護箱(☐ 有 ・ ☐ 無) 保護箱の大きさ(mm) _____ × _____ × _____ 許容入力(設計値) _____ w (連続)																
端 子 位 置	<table border="1"> <thead> <tr> <th>消</th> <th>端子設置場所</th> <th>設 置 個 数</th> <th>そ</th> <th>端子設置場所</th> <th>設 置 個 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">防 用</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">の 他</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	消	端子設置場所	設 置 個 数	そ	端子設置場所	設 置 個 数	防 用			の 他						
消	端子設置場所	設 置 個 数	そ	端子設置場所	設 置 個 数												
防 用			の 他														
混 合 器 共 用 器	☐ 有, ☐ 無 設置場所 _____ ・ 入力端子数 _____ ・ 挿入損失 _____ dB																
分 配 器	☐ 有, ☐ 無 型 名 _____ ・ 挿入損失 _____ dB																
同 軸 ケ ー ブ ル	使 用 長 _____ m ・ 敷設場所 _____ 型 名 _____ ・ 伝送損失 標 準 _____ dB/km 施工方法 ☐ 電線管工事 ・ ☐ 露出工事 耐熱措置方法 _____																
空 中 線	型 名 _____ ・ 設置個数 _____ ・ 利得 _____ dB 電圧定在波比 _____ MHzにて																
漏洩同軸ケーブル	使 用 長 _____ m ・ 設置個数 _____ 型 名 _____ ・ 結合損失 標 準 _____ dB 耐熱措置の方法 _____ ・ 伝送損失 標 準 _____ dB/km																
そ の 他	製造会社名 _____ 漏洩同軸ケーブル _____ ・ 空中線 _____ ・ 分配器 _____ ・ 増幅器 _____ 工事業者 _____ ・ 工事業者連絡電話 _____																

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 項目□欄は、該当するものをレ印でアンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

操 作 盤 ・ 総 合 操 作 盤 概 要 表

項		目		
□ 操 作 盤 (義務・任意) □ 総 合 操 作 盤 (義務・任意)	品 名 ・ 型 式			
	音 響 装 置		□ベル ・ □ブザー ・ □音声警報 ・ その他()	
	表 示 方 法		□CRT ・ □グラフィックパネル ・ □窓 ・ その他()	
	製 造 会 社 名			
	監 視 場 所 (副 監 視) (遠 隔 監 視)		_____階 _____室	
	電 源	常用電源	AC _____V	
		非常電源	☐ 非常電源専用受電設備・ ☐ 自家発電設備 ☐ 蓄電池設備 DC____V____AH ☐ 蓄電池設備と発電設備 予備電源 その他	
	消 防 用 設 備 等	☐ 屋 内 消 火 栓 設 備		☐ ス プ リ ン ク ラ ー 設 備
		☐ 泡 消 火 設 備		☐ 二 酸 化 炭 素 消 火 設 備
		☐ 粉 末 消 火 設 備		☐ 屋 外 消 火 栓 設 備
		☐ ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備		☐ 放 送 設 備
		☐ 排 煙 設 備		☐ 誘 導 灯
		☐ 非 常 コ ン セ ン ト 設 備		☐ 無 線 通 信 補 助 設 備
	避 難 設 備 ・ 建 築 設 備 等	☐ 排 煙 設 備		☐ 機 械 換 気
		☐ 空 気 調 和		☐ 防 火 区 画 (構 成 機 器 設 備)
☐ 防 煙 区 画 構 成 機 器		☐ I T V 設 備		
☐ ガ ス 緊 急 遮 断 弁		☐		
☐		☐		
☐		☐		
工 事 者 区 分	電 源 工 事			
	配 線 工 事			
	配 線 工 事			
	機 器 の 取 付 工 事			
	機 器 の 取 付 工 事			
	機 器 の 取 付 工 事			
そ の 他				

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
- 2 項目中□欄は、該当するものをレ印で、アンダーライン部分には該当する内容を記入すること。
- 3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。